

DIGITABLE 第 103 回勉強会レポート

2017 年 3 月 18 日 於：江東区文化センター 第 1 会議室



“ライトニングトーク” AR 会員の発表

Digitable 研究講座「プリント用スプレー」：平野正志講師

参加者全員による“ライトニングトーク”

Digitable 基礎講座「モバイルプロジェクター QUMI Q6/ ハーフミラーを使つての撮影」

高木大輔講師

DIGITABLE 写真技術勉強会 (HOME) <http://www.digitable.info>

Digitable 研究講座「プリント用スプレー」 ：平野正志講師

筆者が現在使用しているプリンターはすべて顔料だが、以前使用していた染料のプリンターでは普通紙などへの印刷で、ちょっとした水分でもニジンでしまう経験がある。「いろんな紙にインクが滲まない下地が作れる」といううたい文句のスプレーと「ウォータープルーフスプレー」というものをどんな効果があるか検証。

■下地が作れるスプレー

(ベーススプレー IJS-220) 武藤工業 /A4-12 枚程度
印刷した用紙に水をたらしてみる。結果は全く変わらない。そこで思い切って用紙を水に沈めてみる。結果は全くニジマない。顔料系プリンターの優秀さと言えるのか、顔料の特性を示す検証する結果になったようだ。

■ウォータープルーフスプレー

(ホルベイン工業) /A4-40 枚程度
顔料系はもともと水に強いという結論を得たので（印刷後に塗っても意味がない）、あえて印刷する前の段階で、やはり同様に用紙の半分だけにスプレーしてみる。結果は、防水加工の上に水溶性インクを乗せたようなもので、和紙等では染み込みもあるのか、印刷後の乾燥は早く、触れてもにじまない。写真用紙では数時間過ぎても手でこすると取れてしまう。さらにスプレーすると、にじみ自体は解消された。スプレーの濃度によっても、にじみやび割れの様子は変化しそうで、使い方はあるかもしれないと思われる。二つのスプレーはそれぞれ 1300 円程度で販売されている。

DIGITABLE 写真技術勉強会 不許複製 (C) Digitable.info. 20151021 All Rights Reserved



和紙等では染み込みもあり、印刷後の乾燥は早く触れてもにじまない。写真用紙では数時間過ぎても手でこすると取れてしまう

参加者全員による“ライトニングトーク”

- ① IH 会員：10月に行う写真教室：開聞岳（薩摩富士）に沈む夕日撮影でのロケハン。日没軽度が同じ3月初旬に、日の出・日の入りマップ <http://hinode.pics/> を利用して行う。
- ② TN 会員：ガラス工芸の透過撮影装置を自作中。幅 540 × 1800mm の 2t アクリ板を使用。（注：アクリは強度を保つため穴を開けず挟み込んでの固定方式）
- ③ AR 会員：自動プリント機で大量プリントしたが思わぬ結果になり失敗。→プリントサービスの活用法について談義
- ④ IF 会員：冬景色の作品モノクロプリント
…etc.

「モバイルプロジェクター QUMI Q6/ ハーフミラーを使つての撮影」高木大輔講師

■モバイルプロジェクター QUMI Q6

前半は2月ホームルームで機種選定したモバイルプロジェクター QUMI Q6 を購入したので、その特長と使い方について解説。大人数の時や写真鑑賞には、会場で通常のプロジェクターを借りることになるが、トーク時の iPad や他のモバイル機器併用とか新しい使い方もありそうと提案したところ、早速何人かの会員が wifi 接続用のソフト EZcast pro をダウンロードして試してみた。

wifi 接続でも写真の閲覧には問題ないようで、気軽な発表に使えるのだが、動画は少し脈動してしまった。
(動画発表には HDMI コードを使用した方がよさそうだ)

また講座等の PDF のテキスト解説には iPad 上での airPlay ミラーリング機能が便利で快適なようだ。
TK PRESS NEWS 113 号
モバイルプロジェクター QUMI(キューミー)の解説 170224
https://youtu.be/9_knxRz0f7Q

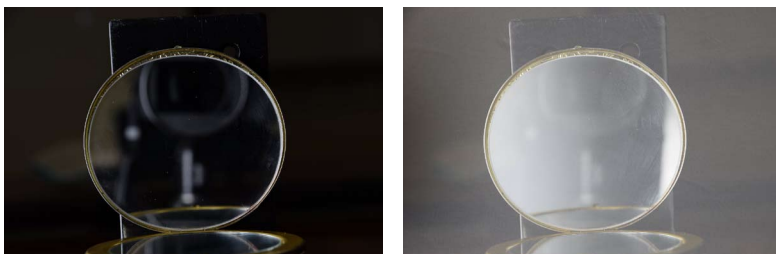
■ハーフミラーを使つての撮影

今年のなつてからの撮影実践講座の三回目。
今回はスタジオプロの高度なテクニック、ハーフミラーを使った撮影について実技解説した。
メタリックなパッケージ等を真正面からとる場合、カメラが映りこんでしまう。ライティングを工夫して目立たなくしたり、撮影角度を変えて映りこみを避け、後でソフトでパース補正するなどが一般的だが、質感が失われたり正確な正面描写とはいえない。

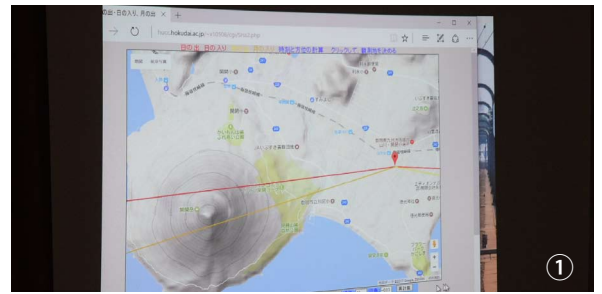
ハーフミラー撮影では、ガラスを被写体とカメラの中間、45度にセットする。ガラスの左側にメインライトとなる、小型のストロボをデフューザーを付けてセットした。これで真横からのストロボ光はカメラに向かわずに、45度の硝子に反射して被写体の正面から光が当たることになる。
カメラ側からはストロボ光の影響をほとんど受けずに、前面に光の当たったパッケージの姿が得られた。

TK PRESS NEWS 115 号
ハーフミラーを使つての撮影 170310
<https://youtu.be/HY-zElb6ZY0>

DIGITABLE 写真技術勉強会 不許複製 (C) Digitable.info. 20160222 All Rights Reserved



(今月の1枚) 会員からの質問に応え、完全な鏡を撮影してみたが…



ハーフミラー未使用時 ハーフミラー使用時 トップライト使用時